

氏名	岡 咲 博 昭
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 号
学位授与の日付	平成16年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Difference in <i>Ulex europaeus</i> agglutinin-I (UEA-I) binding activity of decay-accelerating factor detected in stools among patients with colorectal cancer and ulcerative colitis (大腸癌患者と潰瘍性大腸炎患者便中に検出される補体制御因子Decay-accelerating factorの <i>Ulex europaeus</i> agglutinin(UEA-I)レクチン結合性の相違)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 谷本 光音 教授 小熊 恵二

学位論文内容の要旨

我々は以前、大腸癌および潰瘍性大腸炎(UC)では、補体制御因子 Decay-accelerating factor(DAF)の発現が増強し、患者便中では増加したDAFが検出されることを報告した。今回、大腸癌とUC組織、便中 DAF に関し、その構造上の違いをレクチン結合性を指標に解析した。

UC 患者便中 DAF は、大腸癌便中 DAF に比べ UEA-I の反応が有意に強くみられた。この差異は大腸病変組織の DAF でも同様にみられ、大腸癌と潰瘍性大腸炎で発現が亢進している DAF は、糖鎖構造上違いが認められ、その相違は便中の DAF にも検出できることが明らかとなった。UC は大腸癌の高危険群である。今回の知見は、UC に合併する大腸癌の検出につながる DAF の糖鎖構造の解明に重要であると考えられる。

論文審査結果の要旨

本研究は、大腸癌および潰瘍性大腸炎 (UC) で、便中にその発現が増強する補体制御因子 Decay-accelerating factor(DAF)に関し、その構造上の違いをレクチン結合性を指標に解析したものである。

UC 患者便中 DAF は、大腸癌便中 DAF に比べ UEA-1 の反応が有意に強く、このことは大腸病変組織の DAF でも同様にみられ、大腸癌と潰瘍性大腸炎では発現が亢進している DAF に糖鎖構造上違いがあることが示された。この知見は、UC に合併する大腸癌の検出に関して臨床的意義あるものと考えられる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。